



KY40798(00/08)

KPFK-12

取扱説明書



このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、製品を安全に使用していただくために必要な注意事項や正しい使用方法が
記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます。

<https://www.kawamura-cycle.co.jp>

※ご使用になる前に必ず本書をお読みください。また、ご使用の際には必ず携帯していただき
必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書は本書裏面に記載されていますので、お買い上げいただいた取扱店より記入をお受けください。

カワムラサイクル

1. 重要なお知らせ	3
1.1 製品について.....	3
1.2 介助者へ.....	4
1.3 お使いになる前に.....	4
1.4 車いす利用者は、歩行者扱い.....	4
1.5 公共交通機関に搭乗される場合.....	5
1.6 車などに載せる場合.....	5
1.7 製品を譲渡・貸与する場合.....	5
1.8 修理のご依頼.....	5
1.9 廃棄する場合.....	5
2. 各部の名称とはたらき	6
3. 安全に関するご注意	7
3.1 安全について.....	7
3.2 警告表示について.....	7
3.3 警告ラベルについて.....	8
3.4 一般的な注意.....	9
3.5 走行時の注意.....	12
3.6 安全にご利用いただくために.....	14
4. ブレーキを使う	15
4.1 駐車用ブレーキを使う.....	15
4.2 介助ブレーキを使う.....	15
5. 各部を調整する	16
5.1 車いすを開く.....	16
5.2 車いすをたたむ.....	19
5.3 フットプレート进行调整する.....	21
5.4 背ベースシート进行调整する.....	22
5.5 枕进行调整する.....	22
6. アームサポート跳ね上げ機能を使う	23
6.1 跳ね上げるとき.....	23
6.2 元に戻すとき.....	24
6.3 高さを調整するとき.....	24

3. 安全に関するご注意

7. フット・レッグサポート機能を使う	25
7.1 エレベーターティンクするとき.....	25
7.2 取り外すとき.....	26
7.3 取り付けるとき.....	26
8. リクライニング機能を使う	27
9. 車いすの使い方	28
9.1 車いすに乗る（移乗する）.....	28
9.2 坂道を走行する.....	29
9.3 階段を下りる・上がる.....	29
9.4 段差を乗り越える.....	30
10. 点検・整備する	31
10.1 日常点検リスト.....	31
10.2 定期点検リスト.....	31
11. 清掃する	33
12. 仕様	34
12.1 各部の寸法.....	34
12.2 各部の仕様.....	35
13. 保証について	36
13 製品記録.....	36
14. 保管する	37
15. 故障かな？と思ったら	37
16. 連絡先	38
保証規定	39

1. 重要なお知らせ

1.1 製品について

■製品の使用目的

この製品は、リクライニング車いすです。
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
この製品は1人乗りです。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がないリクライニング型の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこのリクライニング型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、リクライニング型が使用に適さなくなることがあります。

■同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますのでご確認ください。

部品名	個数	備考
取扱説明書	1冊	
13mmスパナ	1個	
5mm六角レンチ	1個	
背クッション	1個	
座クッション	1個	
背延長	1個	
枕（すきまレスピロー）	1個	

1. 重要なお知らせ

1.2 介助者へ

- 使用者の身体の一部及び衣服（長いマフラー、ひざ掛け、ダブついた服や長いネックレス等）がタイヤ、スポーク、キャスト及び地面、建物、通行者に触れたり、挟まったりしないようご注意ください。
- 介助者は、使用者を乗せる前に十分に練習を行ってください。
- 本書に沿った安全教育を行ってください。
- 使用者と介助者の少なくとも一人が日本語を母国語としない人の場合、使用者と介助者の母国語による安全教育を行ってください。

1.3 お使いになる前に

- 車いすを使用する前には必ず安全のため各部の点検を行ってください。車いすは“動くもの”ですから長時間のご使用により劣化が生じます。ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。
- 異常が見つかった場合は、お買い上げの取扱店に修理をご依頼ください。
- 安全にご使用していただくためにご自身または取扱店で定期点検を行ってください。

※ 詳細については、「10.点検・整備する」を参照ください。

1.4 車いす利用者は、歩行者扱い

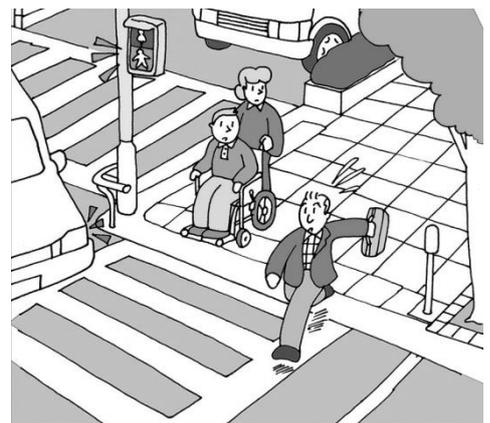
日本の道路交通法では、車いす利用者は歩行者として取り扱われます。

車いす利用時は、歩行者としての交通ルールを守りましょう。

「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」の道路標識がある歩行者専用道路も通ることができます。

信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

あせらず、ゆとりを持った横断、走行を心がけましょう。



1. 重要なお知らせ

1.5 公共交通機関に搭乗される場合



お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用する公共交通機関又は旅行代理店にご相談ください。
※事前確認なしに出発された場合、ご希望の便に間に合わなかったり、ご搭乗・ご乗車できない可能性があります。
特にガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いすは飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。お早めに手続き頂きスムーズなご旅行をお楽しみください。



1.6 車などに載せる場合

車内温度が-10℃～80℃を超えると、ガススプリングが動作不良を起こすおそれがあります。取扱いには十分ご注意ください。
車体を横倒しの状態で車に積まないでください。車軸やフレームに破損が生じるおそれがあります。

1.7 製品を譲渡・貸与する場合

この製品を他の方に譲渡または貸与される際は、必ず本書もあわせてお渡しください。

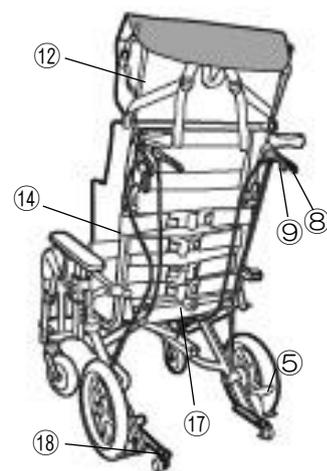
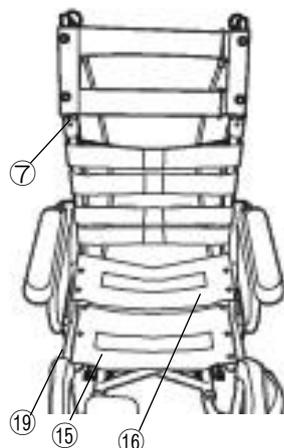
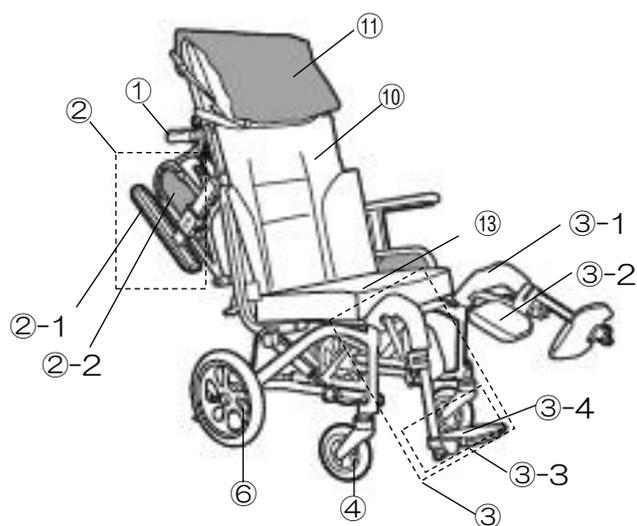
1.8 修理のご依頼

異常がある場合は、使用を中止しお買い上げの取扱店に修理をご依頼ください。

1.9 廃棄する場合

製品を廃棄する場合は、地球の環境保護のため、そのまま放置しないで、各自治体の取決めにしたがってください。

2. 各部の名称とはたらき



No.	名称	説明
①	押手(手押しハンドルグリップ)	介助者が車いすを操作するとき握ります。
②	アームサポート	使用者が肘を支えます。
②-1	肘当て	使用者の肘をのせる部品です。
②-2	サイドガード	衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。
③	フット・レッグサポート	使用者の足を支えます。
③-1	レッグサポートカバー	使用者の足がフレームと干渉するのを防ぐためのカバーです。
③-2	ふくらはぎパッド(レッグサポート)	使用者の足が後ろに落ちないように支えます。
③-3	フットサポート	フットプレートを支えます。
③-4	フットプレート	使用者の足をのせる部品です。
④	キャスタ	自在に方向転換できる小車輪です。
⑤	駐車用ブレーキ	介助者が車いすを駐停車するためのブレーキです。
⑥	車輪	主輪です。
⑦	背折れ金具	背もたれを折りたたむための部品です。
⑧	介助ブレーキレバー (黒色)	介助者がブレーキを操作するとき握ります。
⑨	リクライニングレバー(エンジ色)	リクライニングするとき握るレバーです。
⑩	背クッション(バックサポート)	使用者の身体を支える部品です。
⑪	枕(すきまレスピロー)	使用者の頭部を支える部品です。
⑫	背延長	枕を取り付ける場所です。
⑬	座クッション(シート)	使用者が座る部品です。
⑭	背ベースシート	使用者の身体を支える部品です。背折れ金具よりも下にあるベルトのことはスキニーズベルトと呼びます。
⑮	ベースシートトップ	使用者の大腿部を支える部品です。
⑯	ベースシートバック	使用者の臀部を支えるシートです。
⑰	ちぢみ止め	左右のフレームを連結している部分です。
⑱	ティッピングレバー	介助者がキャスタ上げをするときに踏むためのレバーです。
⑲	シートパイプ	シートの支えになるパイプです。

3. 安全に関するご注意

3.1 安全について

この製品では、次の2つの方法により、利用者へ製品使用上の注意事項をお伝えしています。

- 本書への「警告文」の記載
- 製品上への「警告ラベル」の貼り付け

製品をご利用になる前に、本書に記載されているすべての警告文を注意深くお読みください。また、製品に貼られたすべての警告ラベルの場所と内容をご確認ください。

万一、警告文や警告ラベルの意味が十分理解できないときは、当社のサービスセンターまでご相談ください。

警告文や警告ラベルの意味を十分理解するまで絶対に製品を使用しないでください。

3.2 警告表示について

本書の警告文および警告ラベルでは、製品使用中に想定される危険な状態を以下のシンボルマークで表示しています。

警告文や警告ラベルの内容を無視すると、その警告内容に使われたシンボルマークに応じた事故につながるおそれがあります。

■ 表示の説明

シンボルマーク	警告の意味
 危険	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危害の程度。
 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷を負うことが想定される危害の程度。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負うことが想定されるかまたは、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

■ 図記号の意味（JIS Z9104 より）

シンボルマーク	警告の意味
 禁止	してはいけないことを示しています。
 強制	必ずしなければならないことを示しています。

3. 安全に関するご注意

3.3 警告ラベルについて

■ 取扱い上の注意事項

警告ラベルを破る、傷つける、はがす、またはシンナーやベンジンなどの有機溶剤で拭かないでください。

製品に貼られた警告ラベルの文字が読みにくくなったり、破損したり、はがれた場合には、当社から同じラベルを購入し、元と同じ場所に貼り直してください。

警告ラベルが貼られた部品を交換した場合は、交換前と同じ位置に新しい警告ラベルを貼ってください。

■ 貼付位置

右側サイドガード（内側）

▲ 注意 ケガをするおそれがあります

- 可動部分を持って持ち上げないでください。
- 認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
- 座面が確実に固定されていることを確認してください。
- 手や衣服をはさまないようにご注意ください。

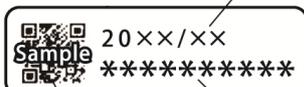
左側サイドガード（内側）

▲ 警告 転倒してケガをするおそれがあります

- 取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
- 乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
- 地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
- 段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
- 最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
- アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
- フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
- 駆動輪やキャストが外れないことを確認してください。
- 座面以外に腰掛けしないでください。

製造年月/製造年月シール

製造年月



QRコード 製造番号

※右背フレーム後面に貼付

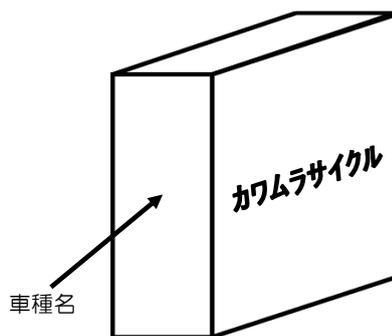
車種記号シール

※右サイドフレームに貼付

▲ 注意

背折れ金具のスライドピンが出ていない場合は、背延長を取り外した後、再度背折れ金具を操作して下さい。

背延長カバー裏面



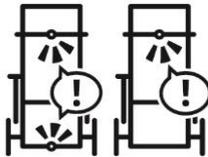
3. 安全に関するご注意

3.4 一般的な注意

⚠ 危険

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● エスカレーターでは使用しないでください。 ※介助者がいる場合でも、転落などにより重大な事故のおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 前方が見えないほど身長の高い方や子供は、車いすを押さないでください。 ※前方が見えず、転落などにより重大な事故のおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすに荷物を掛けたり、ぶら下がったりしないでください。 ※転倒したり、不意に動き出したりして重大な事故のおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 足こぎなどで走行しないでください。 ※キャストが足にあたりケガや転倒するおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 勝手に改造・分解しないでください。 ※フレームが破損したりシートが破れたりするなど、車いすの強度や耐久性が低下して思わぬ事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすを火気に近づけないでください。 ※シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● ポケットには1kg以上の重いものを入れないでください。 ※過度の荷物はバランスを崩し危険です。
	<ul style="list-style-type: none"> ● シート以外の部分に腰掛けしないでください。 ※バランスを崩し危険です。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。 ※事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の取扱店にご相談ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。 ※車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うなどした場合、車いすごと転倒し大変危険です。 
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。 ※バランスを崩し危険です。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 介助者は使用者の腕がアームサポートから外側に落ちていないか、よく注意しながら操作してください。 ● 移乗介助は転倒に注意し、利用者の身体状況に合わせて安全に行う。 ※ケガをするおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすに乗り降りする際や一旦停止する際は、まわりの安全を確認し、必ず駐車用ブレーキをかけて車いすを固定してください。 ※車いすが不意に動き出し、重大な事故につながるおそれがあります。 

3. 安全に関するご注意

 警告	
 禁 止	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲酒時の使用は、使用者も介助者も厳禁です。 ※意図しない動作をするおそれがあります。 ● リクライニングを倒した状態で食事をしないでください。 ※誤嚥、気道閉塞のおそれがあります。
	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分でコントロールできない方や認知症の方の場合、介助者無しで使用しないでください。 ※交通事故などの重大な事故発生のおそれがあります。
 強 制	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用時は、ちぢみ止めをかけ忘れないようにしてください。 ※転倒してケガをするおそれがあります。 また、主フレームが歪み故障のおそれがあります。
	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助・操作を行ってください。 ※不慣れた状態で車いすを操作すると転倒や転落など思わぬ事故のおそれがあります。 ● ご使用前には各部を点検してください。また、部品等の破損や損傷がある場合には、ご使用を中止し、すぐに取り扱店にご相談ください。 ※長時間のご使用または長期間の放置等による劣化から、車いすの強度や機能が低下し思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

3. 安全に関するご注意

⚠ 注意	
 禁止	<p>● 車いすの操作は、力の無い人、ハイヒールなど不安定な履物を履いた人がしないでください。 ※制御しきれなくなって、予期せぬ事故のおそれがあります。</p> 
	<p>● 人以外を乗せないでください。また車いす以外の目的に使用しないでください。 ※運搬者や周りの人にケガをさせるおそれがあります。</p> 
	<p>● 下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車道に近いところ ・ 路面に段差や凸凹のあるところ ・ 海沿いの屋外(潮風の当たるところ) ・ ほこりの多い場所 ・ 非常口、消火器、消火栓の前 ・ 直射日光の当たる場所 (車内も含む) ・ ストーブなど火気を使用し高温になる場所 ・ 人通りのあるところ ・ 湿気の多いところ ・ 雨、風のアたる場所 ・ 坂道 ・ 暑い日や寒い日の戸外 ・ 子供がいたずらをする恐れのある場所 <p>※事故やサビ・破損の原因になります。</p>
	<p>● 歩行補助として使用しないでください。 ※車いすの制御が出来ず、重大な事故につながるおそれがあります。</p> 
	<p>● 車いすをぶついたり、落としたり、衝撃を加えないでください。 ※フレームが歪むなど、破損や故障の原因になります。</p>
 強制	<p>● 各部の操作をする場合は、安定した場所で行ってください。 ※不安定な場所で行うと車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。</p>
	<p>● 背折れ金具のスライドピンがしっかりはまっているかご確認ください。 ※不十分ですと、背もたれが突然倒れ、ケガをするおそれがあります。</p> 
	<p>● 人を乗せたまま背もたれを起こす場合は注意が必要です。 ※背折れ金具で使用者の背中を挟み込んでケガをさせるおそれがあります</p> 
	<p>● 介助者は、使用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。 ※利用者の身体の一部または衣服がタイヤやスポーク、キャスト及び地面、建物や周りの通行者に触れるなどしてケガをするおそれがあります。</p>

3. 安全に関するご注意

3.5 走行時の注意

⚠ 危険

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 急な坂道（勾配4度以上）では使用しないでください。 ※介助者が車いすを支えきれなくなり、転倒したり、 また、暴走し壁や車に激突し、重大な事故のおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 踏切や側溝はできるだけ走行しないでください。 ※キャストが線路や溝にはまり込んだり、急ブレーキをかけて使用者が 転倒すると動けなくなり、交通事故などの重大事故となるおそれ があります。また、やむを得ず横断する際はレールに対して車輪を 直角にして走行してください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 不整地はできるだけ走行しないでください。 ※車輪が思うように動かさなくなり、使用者が転倒して大ケガをするおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 凍結した道路や雪、雨の中を走行しないでください。 ※滑って転倒して大ケガをするおそれがあります。また、夜間や強風、濃霧などの悪天候等、 危険が予想される場合での走行も避けてください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 傘や荷物を持って、片手で走行しないでください。 ※視界不良やバランスを崩すことによって事故のおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車道を走行しないでください。 ※交通事故に巻き込まれるおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすでの走行中は、車いすから身体を乗り出さないでください。 ※車いすが不安定になり、転倒のおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾斜地、坂道での走行は特にご注意ください。 ※傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向へ進む、スピードが出やすいなど大変危険です。 出来るだけ介助者に支えてもらうようにしてください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 走行中は身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。 ※段差や凹凸のある路面等を走行するときは、特にご注意ください。 	

⚠ 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。 ※転落・転倒など使用者の危険だけでなく、 衝突など周りの方にもケガをさせるおそれがあります。 	
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 濡れた路面など滑りやすい場所の走行は注意が必要です。 ※介助ブレーキが効かず壁にぶつかったり、転倒したりしてケガをするおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅のホームでの走行は注意が必要です。 ※ホームから転落したり、乗降時に電車とホームの間に 落ち込んだり、人と接触したりしてケガのおそれがあります。 	

3. 安全に関するご注意

警告



強制

- 発進するときや段差を乗り越えるときは、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
※斜めに進入したり、キャストやタイヤが斜めになった状態で発進すると、段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となるおそれがあります。



注意



禁止

- 石や段差など片上がりさせて走行しないでください。
※主フレームやキャストを損傷させるおそれがあります。
- タイヤをもって車輪を操作しないでください。
※駐車用ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



強制

- 車いすを押す場合は必ずグリップを使ってください。
※グリップを使わず、背クッションなどを押ししたり牽引したりするとバランスを崩して転倒するおそれがあります。
- 車いすを押す場合は駐車用ブレーキが解除されていることをご確認ください。
※駐車用ブレーキをかけたまま無理に押しますと、車いすの各部に異常な力がかかり破損のおそれがあります。
- エレベータの乗降時には注意が必要です。
※車いすが当たるなど、使用者だけでなく周囲の人もケガをするおそれがあります。また、ドアに挟まりケガをするおそれがあります。
- 転倒防止金具付近に足などを近づけないでください。
※足がはさまるなどのおそれがあります。



3. 安全に関するご注意

3.6 安全にご利用いただくために

 警告		
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 車いすを押す場合は、速度は抑え目にしてください。 また、極端な前ずれに注意してください。 ※転倒や周囲との衝突などによりケガをするおそれがあります。	 
	<ul style="list-style-type: none">● 使用者の足をフットプレートに乗せ、レッグサポートを使用してください。 ※使用していないと足が落ち込み、キャストに巻き込まれてケガをするおそれがあります。	

 注意		
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 安定した姿勢で座ってください。 ※座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。 また、介助者は使用者が安定した姿勢で座っていることをご確認ください。	
	<ul style="list-style-type: none">● 回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。 ※指がタイヤのスポークに挟まれ切断などのおそれがあります。	
	<ul style="list-style-type: none">● 車いすにバリ(割れや鋭利な突起)などがないかをご確認ください。 ※衝突等により金属・樹脂部にバリなどが発生することがあります。 ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。	
	<ul style="list-style-type: none">● 靴を履かずに足をフットプレートに乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。 ※壁や柱で足をケガしたり、足がフットプレートから落ちて骨折するなど大変危険です。	

なお、本書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

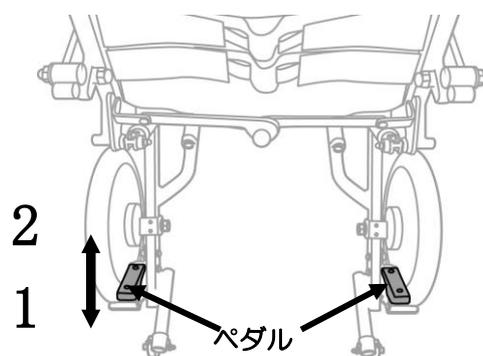
4. ブレーキを使う

4.1 駐車用ブレーキを使う

使用者または介助者が車いすを駐停車するためのブレーキです。

 警告	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 坂道や傾斜地では駐車しないでください。 ※坂道や傾斜地では駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。（滑りやすい床面などでは、駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。） 
 注意	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 駐車用ブレーキのペダルは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。 ※ブレーキが変形・破損するおそれがあります。● 駐車用ブレーキのペダルは履物をはかずに操作しないでください。 ※ケガをするおそれがあります。

1. ペダルを踏み、左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. ペダルを押し上げ、駐車用ブレーキを解除します。



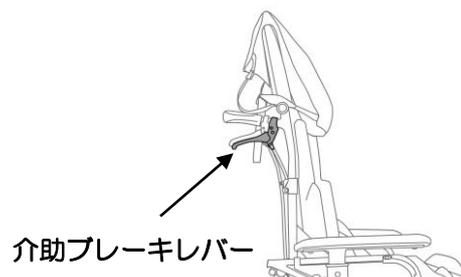
4.2 介助ブレーキを使う

介助者が走行中の車いすを制動させるためのブレーキです。

 警告	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 急ブレーキや片側ブレーキは、絶対にかけないでください。 ※使用者が投げ出されたり、車いすが転倒してケガをさせるおそれがあります。
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 介助ブレーキをかける時は、必ず両方のブレーキレバーを握り、左右均等の力を加えてください。 ※左右を別に操作すると、車いすが旋回し、バランスを崩して転倒するなど使用者にケガをさせるおそれがあります。

両方のブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。

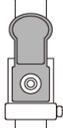
（自転車のブレーキと同じ要領で操作します）



5. 各部を調整する

5.1 車いすを開く

⚠ 注意

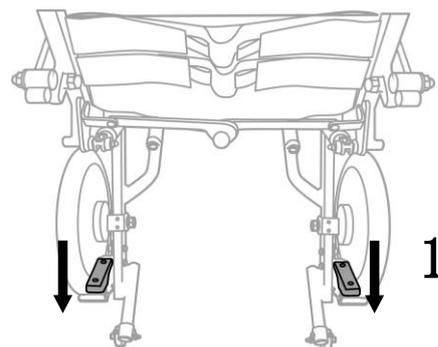
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 矢印の箇所に手や指を置かないでください。 ※挟まってケガをするおそれがあります。	
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。 ※回転したまま使用すると背折れレバーが破損するおそれがあります。	

📌 注記

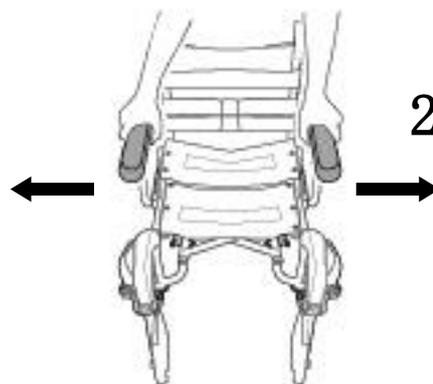
平坦な場所で行ってください。

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。

- 車いすが固定されていることを確認します。



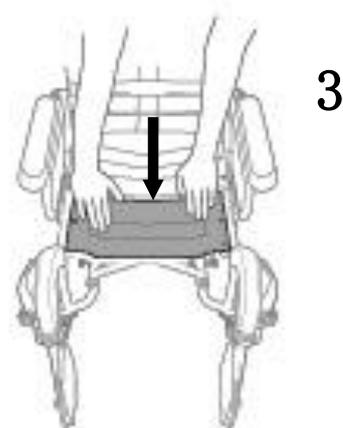
2. アームサポートを持って両側に軽く拡げます。



5. 各部を調整する

3. ベースシートトップ両端のシートパイプ部分を押し下げます。

⚠ 注意	
禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。 ※主フレームとの間に手や指を挟まれ、ケガをするおそれがあります。



注記

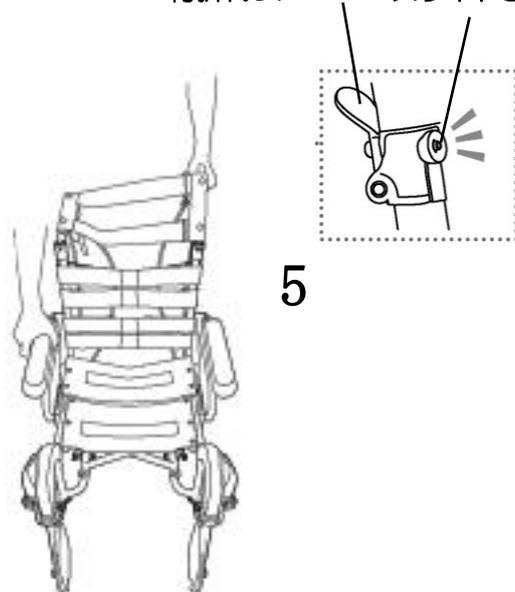
- シートパイプをシートパイプ受けに確実に入れてください。主フレームが変形して、事故の原因となります。

4. ちぢみ止めが解除されていることを確認します。

「5.2 車いすをたたむ」の手順5を参照

5. 片側の手で車いすが動かないように支えて、手押しハンドルを起こします。

背折れレバー スライドピン

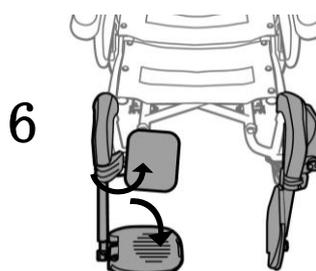


注記

- 背折れ金具のスライドピンが左右ともに「カチッ」と音がして、完全に出ていることをご確認ください。
- 背もたれがロックされ、後ろに倒れないことをご確認ください。
- ちぢみ止め等にワイヤーが引っ掛かっていることをご確認ください

6. フットプレートとレッグサポートを下ろします。

- 左右に跳ね上げられているフットプレートを矢印の向きに下ろしてください。
- 左右に開かれているレッグサポートを矢印の向きに下ろしてください。
- 調整方法につきましては「5.3 フットプレートを調整する」の項をご参照ください

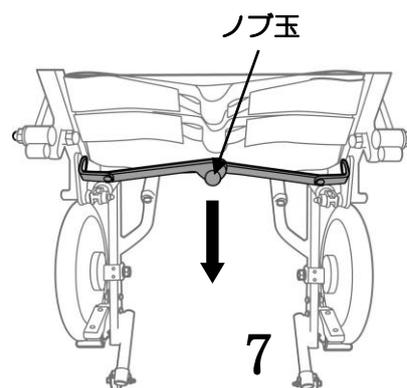


5. 各部を調整する

7. ちぢみ止めにロックします。

- ちぢみ止めのノブ玉を持ち、矢印の方向に押し下さい。

⚠ 注意	
 禁止	●ノブ玉以外を持って操作しないでください。 ※ちぢみ止めに手や指をはさまれ、ケガをするおそれがあります。



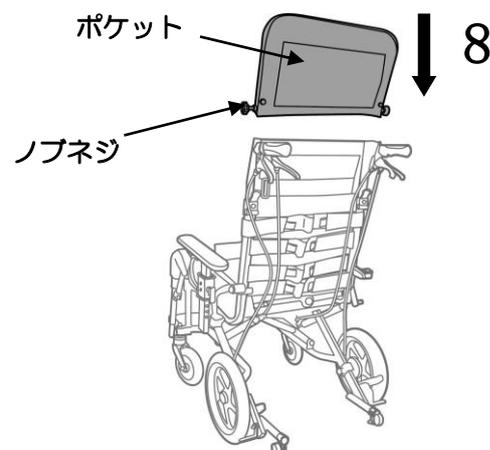
☞ 注記

- 背もたれ、ちぢみ止めがしっかりロックされていることをご確認ください。

8. 背延長を差し込み左右のノブネジを締め固定します。

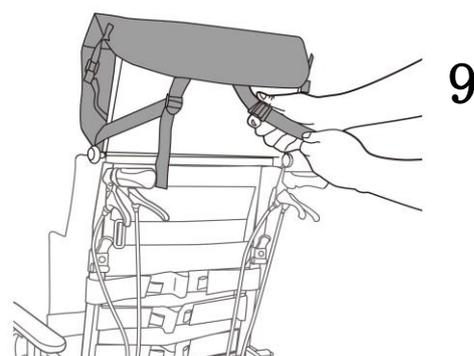
☞ 注記

- 背延長はポケット側を後ろにして取り付けてください。



⚠ 注意	
 禁止	●背延長を取り付けていない状態で使用しないでください。 ※ケガをするおそれがあります。

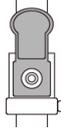
9. シート、バックサポート、枕を取り付けます。



5. 各部を調整する

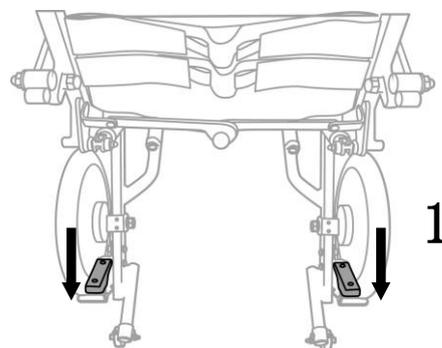
5.2 車いすをたたむ

⚠ 注意

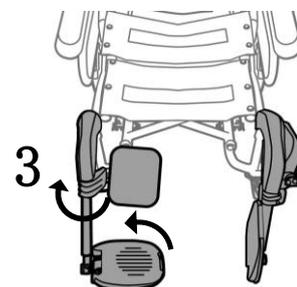
 禁止	● 矢印の箇所に手や指を置かないでください。 ※はさまってケガをするおそれがあります。	
	● 背もたれが折れた状態で移乗しないでください。 ※フレームが不安定な状態で移乗すると、指などをはさんでケガをするおそれがあります。	
 強制	● 背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。 ※回転したまま使用すると背折れレバーが破損するおそれがあります。	

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。

- 車いすが固定されていることを確認します。



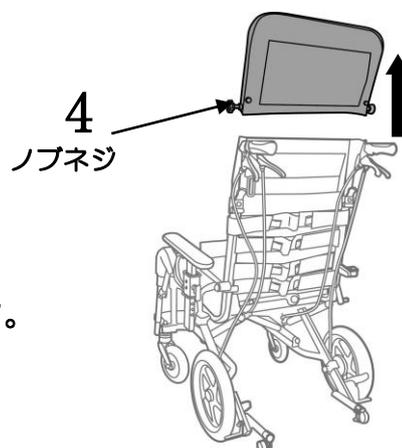
2. 座クッション、背クッション、枕を取り外します。



3. フットプレートとレッグサポートを折りたたみます。

📌 注記

- フットプレートを内側に倒した状態のままだと、折りたたみが出来ません。折りたたみの際はフットプレートが上方へ跳ね上げられていることをご確認ください。



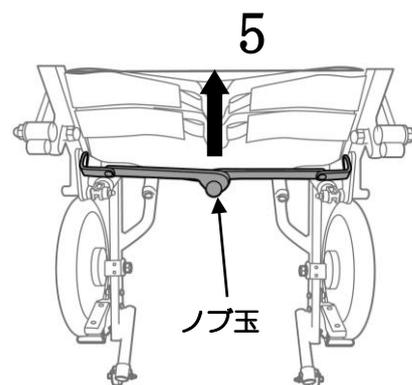
4. 背延長の左右のノブネジを緩め背延長を取り外します。



5. 各部を調整する

5. ちぢみ止めのロックを外します。

- ちぢみ止めのノブ玉を矢印の方向に引いてください。
- ちぢみ止めのロックが解除され、車いすが折りたためるようになります。



⚠ 注意	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">●ノブ玉以外を持って操作しないでください。※ちぢみ止めに手や指を挟まれ、ケガをするおそれがあります。

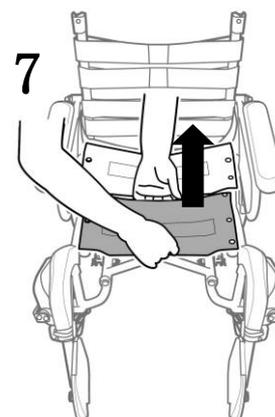
6. 背もたれを折りたたみます。

- 片方の手で手押しハンドルを支えた状態で、もう一方の手で背折れレバーを後方へ倒しながら、手押しハンドルを手前に倒します。



7. シートを折りたたみます。

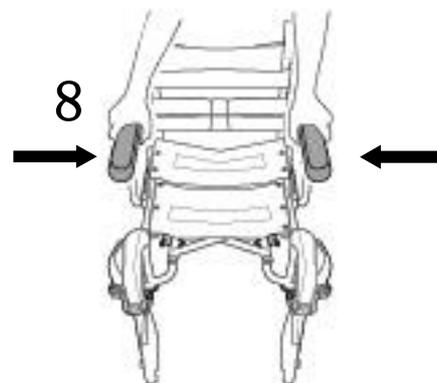
- ベースシートトップの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。



注記

- ベースシートバックは持たず、ベースシートトップのみ持ち上げてください。

8. アームサポートを持って、左右から押し縮めるように折りたたみます。



5. 各部を調整する

5.3 フットプレートを調整する

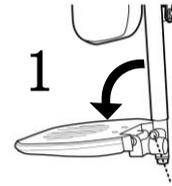
⚠ 注意



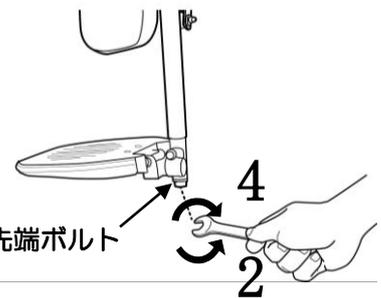
禁止

- フットプレートは下げすぎないでください。フットプレートと地面との隙間が50mm以下になるような調整はしないでください。
※フットプレートが障害物にぶつかり破損するおそれがあります。

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. フットプレートを内側に倒します。



3. 付属品の13mmスパナを使ってポスト先端ボルトを緩めます。
(反時計回りでボルトが緩みます)



4. フットプレートを左右回転させながら位置をずらして高さを調整します。

5. ポスト先端ボルトを締付けます。(時計回りでボルトが締まります)

- フットプレートがしっかり固定されていることをご確認ください。

📌 注記

- フットプレートが固くて動かない場合は、右図のように車いすを倒し、ポスト先端ボルトを緩めた状態でフットサポートに垂直に木槌等でポスト先端ボルト頭を叩いてください。
(レッグパイプ内部のフットサポートのかみ込みを解除します。)



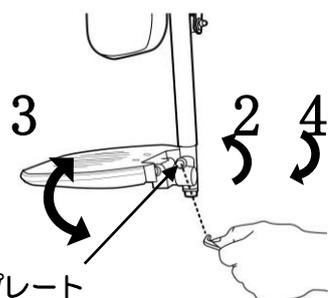
〈フットプレートの角度を調整する〉

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. 付属品の5mm六角レンチを使ってフットプレート角度調整ボルトを緩めます。
(反時計回りでボルトが緩みます)

3. フットプレートを回転させ角度を調整します。

4. フットプレート角度調整ボルトを締付けます。(時計回りでボルトが締まります)

- フットプレートがしっかり固定されていることをご確認ください。



フットプレート
角度調整ボルト

5. 各部を調整する

5.4 背ベースシートを調整する

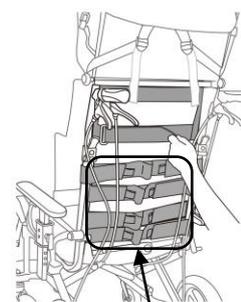
この車いすの背ベースシートは使用者の体型に合わせて調整できます。
一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

⚠ 注意	
! 強制	<ul style="list-style-type: none">● 背ベースシートを調整した後、シートパイプがシートパイプ受けに収まっていることをご確認ください。 ※シートパイプ受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながるおそれがあります。● 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。 ※接着力が弱まり、衝撃を受けた際に転倒事故の原因となります。

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. 背ベースシートの調整ベルトを使用者の体型に合わせて調整します。

📌 注記

- スキニーズベルト調整時はベルト中央に隙間があることをご確認ください。隙間が無くなる程ベルトを張るとベルト本来の伸縮機能を損ないます。



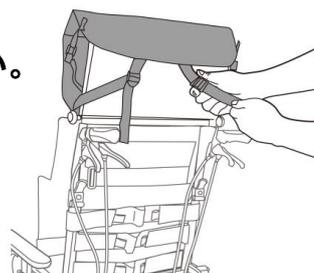
2

スキニーズベルト

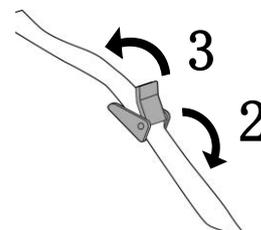
5.5 枕を調整する

この車いすの枕は厚みを調整できます。
一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. ベルトのロックを解除します。
3. 枕の厚みを見ながら任意の位置でロックします。



ロック作動方向



⚠ 注意	
! 強制	<ul style="list-style-type: none">● ロックを作動方向以外、もしくは必要以上に力をかけないでください。

6. アームサポート跳ね上げ機能を使う

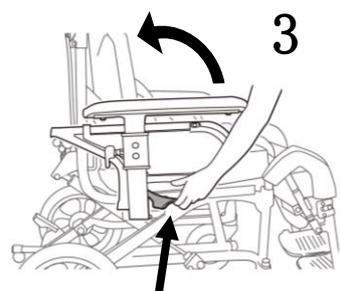
アームサポートを跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。また、この車種はアームサポートの高さを調節できます。使用者の身体状況に応じて調節してください。

⚠ 警告	
❌ 禁止	<ul style="list-style-type: none">● アームサポートに体重以上の過大な力をかけないでください。 ※アームサポートが折れ、転倒してケガをするおそれがあります。● アームサポートとフレームとの間には手や腕などを入れないでください。 ※手や腕がはさまるとケガをするおそれがあります。
! 強制	<ul style="list-style-type: none">● アームサポート跳ね上げは下ろした状態で使用ください。 ※転倒のおそれがあります。● 使用時はアームサポートがしっかりと固定されていることをご確認ください。 ※アームサポートが外れるなどの危険があります。

⚠ 注意	
❌ 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 背もたれを折りたたんだ状態で、跳ね上げ操作をしないでください。 ※背折れ金具を破損する恐れがあります。
! 強制	<ul style="list-style-type: none">● アームサポートを操作する場合は、使用者に声をかけてから行ってください。 ※使用者の手足を挟み、ケガをさせるおそれがあります。● アームサポートの跳ね上げは、必ず最後まで後ろに跳ね上げてください。 ※肩や腕に接触しケガをするおそれがあります。● ベッドなどに移乗する際は、跳ね上げたアームサポートに体が接触したり衣服が引っ掛からないようご注意ください。 ※接触しケガをするおそれがあります。

6.1 跳ね上げるとき

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. レバーを右図のように握り、ロックを解除します。
3. 肘掛けを矢印の方向に跳ね上げます。



📌 注記

- 腕をのせた状態で操作しないでください。

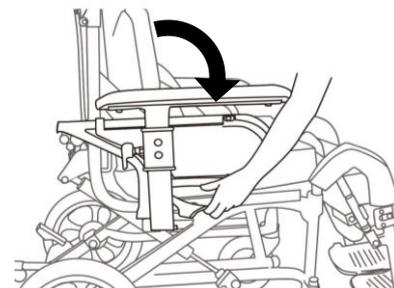
6. アームサポート跳ね上げ機能を使う

6.2 元に戻すとき

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. アームサポートを矢印の方向に下ろし、一番下まで押し下げます。

注記

- アームサポートを下した後は上下に軽く揺らして、固定されていることをご確認ください。

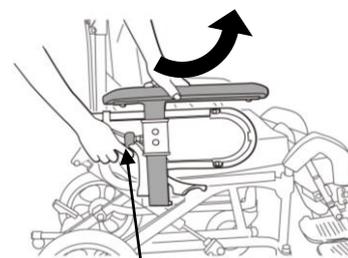


6.3 高さを調節するとき

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. スライドノブを引き、ロックを解除します。

注記

- 腕をのせた状態で操作しないでください。



スライドノブ

3. スライドノブを引いた状態でアームサポートを矢印の方向に引き上げ（押し下げ）任意の高さに調節します。

注記

- 調節後はアームサポートを上下に軽く揺らして、固定されていることをご確認ください。

7. フット・レッグサポート機能を使う

エレベータリングはフット・レッグサポートの角度を任意で調整できる仕様です。
リクライニング時のリラックス姿勢や膝が曲らない場合などに調整し、
適正な位置でお使い頂けます。

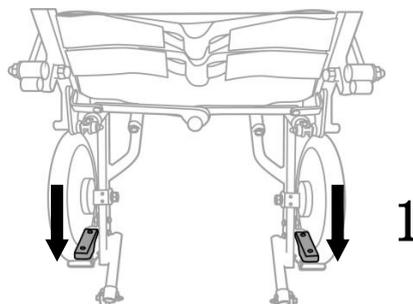
⚠ 注意

 強制	<ul style="list-style-type: none"> ●フット・レッグサポートを操作する場合は、使用者に声をかけてから行ってください。 ※ケガをするおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●フット・レッグサポートを操作する場合は、注意してください。 ※指がはさまりケガをするおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●レッグサポートカバーを取り外して使用しないでください。 ※手足をはさみ、ケガをさせるおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●エレベータリング操作をする場合は、使用者に声をかけてから行ってください。 ※使用者の手足をはさみ、ケガをさせるおそれがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●エレベータリング操作をする場合は、両手で操作してください。 ※ケガをさせるおそれがあります。 	

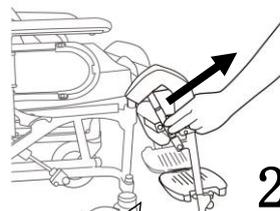
7.1 エレベータリングするとき

＜上げる場合＞＜下げる場合＞

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。



2. エレベータリングレバーを引いてロックを解除し、フットサポートを引き上げ、もしくは引き下げます。



エレベータリングレバーのロックを解除すると勢いよく下がります。

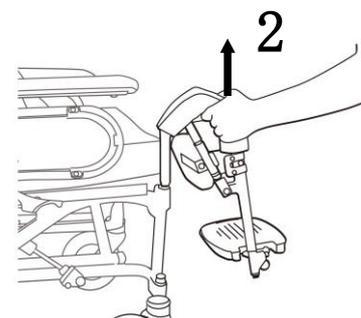
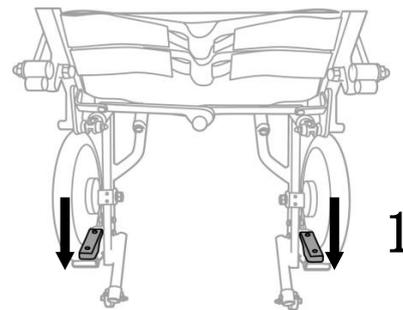
7. フット・レッグサポート機能を使う

7.2 取り外すとき

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. フット・レッグサポートのカバー部分を持ち矢印の方向にもち上げ、取り外します。

注記

- フットサポートのカバー部分以外を持ち上げても取り外しが出来ません。

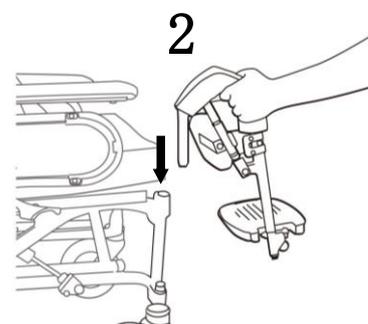
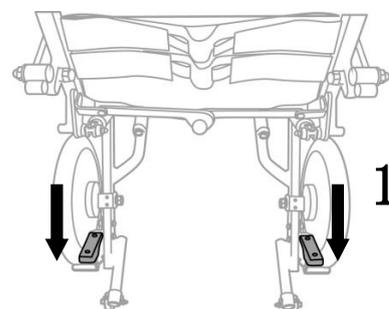


7.3 取り付けるとき

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。
2. フレーム本体のフット・レッグサポート取付パイプにフット・レッグサポートを差し込み取り付けます。

注記

- 取り付け後は、フット・レッグサポートを左右に軽く揺らして固定されていることをご確認ください。



8. リクライニング機能を使う

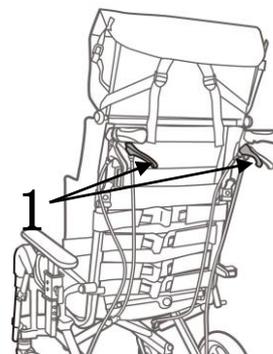
本製品の背もたれは、体幹を保持するために角度を調整できます。
また、独自の機構により、繰り返しリクライニング操作を行っても腹部への圧迫や骨盤の押し出しが生じないため、使用者への負荷がかかりません。

⚠ 注意

- | | |
|---|---|
| 
強制 | ●リクライニング操作時は、安定した場所で行ってください。
※不安定な場所で行うと車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。また、主フレームが破損するおそれがあります。 |
| | ●リクライニング（背もたれを倒した）状態で走行しないでください。
※転倒の恐れがあります。 |
| | ●ガสปリングの取付け部周辺に、手や足を入れしないでください。
※フレームに手や足がはさまり、ケガをするおそれがあります。 |
| | ●リクライニング操作時は、必ず両方のリクライニングレバーを握り、左右均等に力を加えてください。
※左右を別に操作すると、バランス崩して転倒するなど、使用者にケガをさせるおそれがあります。 |
| | ●リクライニング操作をする場合は、使用者に声をかけてから行ってください。
※使用者の手足を挟み、ケガをさせるおそれがあります。 |
| | ●リクライニング時は、必ず介助者が付き添ってください。
※リクライニング時は非常に不安定となり、後方へ転倒しやすく使用者にケガをさせるおそれがあります。転倒防止金具を装備していますが、走行時は十分に注意してください。 |

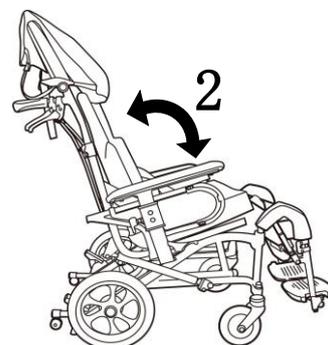
＜リクライニングする＞

1. 両方のリクライニングレバー（エンジ色）を握ります。
2. リクライニングレバー（エンジ色）を握った状態で、下げる（上げる）と背もたれが倒れ（起き上がり）ます。



📌 注記

- リクライニングレバー（エンジ色）を放すとその時点で背もたれは固定されます。
- 人が搭乗した状態でないと背もたれを倒すことはできません。



9. 車いすの使い方

9.1 車いすに乗る（移乗する）

平らな場所で行ってください。また、背もたれが折りたたまれた状態で移乗を行わないでください。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

⚠ 危険	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● フットプレートの上に乗らないでください。 ※車いすごと転倒し、大ケガをするおそれがあります。
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 移乗時は、介助者が安定した体勢で行ってください。 ※不安定な姿勢で行った場合、介助者や車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。
⚠ 警告	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。 ※事故の原因となります。
⚠ 注意	
 強制	<ul style="list-style-type: none">● 車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。 ※バランスを崩し危険です。

1. 左右の駐車用ブレーキをかけます。

2. 介助者が片足を使用者の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



3. 介助者の膝で使用者を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。



4. 使用者にゆっくりと腰を下ろしてもらいます。



注記

- 「いち、にの、さん」など、声をかけながらおたがいに協力しましょう。
- 転倒しないように、十分な配慮が必要です。

9. 車いすの使い方

9.2 坂道を走行する

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり” “確実に” が基本です。

■ 上り坂

介助者は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



■ 下り坂

坂を下るときは介助ブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。



9.3 階段を下りる・上がる

⚠ 警告



強制

- 車いすを持ち上げる場合は、必ず4人以上でフレーム下部を支えてください。
※ 無理して持ち上げると介助者も巻き込んで転倒するおそれがあります。
- 車いすを持ち上げる場合は、駐車用ブレーキをかけ、固定されているフレームをしっかり支えてください。
※ 転倒・転落のおそれがあり大変危険です。
- 駐車用ブレーキをかけてから、車いすを持ち上げてください。
※ 車いすをおろした時に、不意に車体が動き、思わぬ事故になるおそれがあります。

一段ごとにタイミングをとってください。



9.4 段差を乗り越える

⚠ 警告



禁止

- 5cm 以上の段差を乗り越えないでください。
※ 後方に転倒してケガをさせるおそれがあります。

⚠ 注意



強制

- 段差を乗り越える場合は、前上げ動作を行ってください。
※ キャスタを段差にぶつけて破損させるおそれがあります。

■ 上がるとき

主フレームの前下部を持ち上げて、段上にキャストを上げます。



■ 下りるとき

後ろ向きでゆっくりと車輪をおろし、
ティッピングレバーを踏んでキャストを上げた
まま後進し、ゆっくりと下ろします。

★転倒防止に充分配慮してください。

- 乗車・降車・移乗の際には不安定になりやすいため、転倒しやすくなります。
- 転倒しないよう、
- ・ 車いすの後方を人が支える
 - ・ 車いすの後方をベッドや壁に押し付ける
- などの方法で充分配慮してください。

10. 点検・整備する

10.1 日常点検リスト

車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。
 付属の工具を使用する場合、薄手の手袋を装着してください。

点検項目	点検内容
装着品の確認	レッグサポートカバーは装着されていますか？
	スキニーズベルトが4本装着されていますか？
	背延長が装着されていますか？
	座クッション、背クッション、枕が装着されていますか？
	フット・レッグサポートは装着されていますか？
キャスト	キャストはしっかり固定されていますか？
駐車用ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか？
介助ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか？
アームサポート	ガタやネジの緩みはありませんか？
	ロック/解除は確実に操作できますか？
フット・レッグサポート	フットプレートはしっかり固定されていますか？
フレーム	まっすぐに走りますか？
	各部ボルトやナットが緩んでいませんか？

10.2 定期点検リスト

安全に使用して頂くためにご自身または取扱店で定期的に点検をして頂きますようお願いいたします。長期間使用されなかった場合もリスト内の点検をしてください。
 点検後、必要に応じて部品交換または各部調整をしてからご利用ください。

点検項目	点検内容	点検者	点検者	点検者
		年月日	年月日	年月日
装着品の確認	レッグサポートカバーは装着されていますか？			
	スキニーズベルトが4本装着されていますか？			
	背延長が装着されていますか？			
	座クッション、背クッション、枕が装着されていますか？			
	フット・レッグサポートが装着されていますか？			
車輪	緩み、損傷、摩耗はありませんか			
	キズ、ひび割れはありませんか			
	異物が刺さっていませんか			

点検項目	点検内容	点検者	点検者	点検者
		年月日	年月日	年月日
キャスト	しっかり固定されていますか			
	キャスト輪はしっかり固定されていますか			
	キズ、ひび割れはありませんか			
	異物が刺さっていませんか			
駐車用 ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか			
	取付部が緩んでいませんか			
	利きに左右差はありませんか			
介助 ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか			
	取付部が緩んでいませんか			
	利きに左右差はありませんか			
	ブレーキワイヤに切れ、ほつれはありませんか			
アーム サポート	ガタはありませんか			
	ネジは緩んでいませんか			
	キズや亀裂はありませんか			
	ロックは確実にできますか？			
	解除はスムーズに操作できますか？			
フット・ レッグサポート	フットプレートはしっかり固定されていますか			
	フットプレートが自重で落下しませんか			
	角度調整部のネジが緩んでいませんか			
	キズや割れはありませんか			
	ロックは確実にできますか？			
	解除はスムーズに操作できますか？			
シート	著しいたるみはありませんか			
	枕（すきまレスピロー）が破れていませんか			
全体	各部にガタつきはありませんか			
	ボルト・ナットが緩んでいませんか			
	手押しハンドルは背折れ金具のスライドピンでしっかり固定できていますか			
	異音はありませんか			
	車輪とキャストは全て地面に接地していますか			
	まっすぐ走行しますか			
	折りたたみはスムーズに行えますか			

11. 清掃する

■ 金属部分（主フレーム）

主フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。ホイルの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で十分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

ガススプリングのお手入れは、水を使用せず、汚れを落としてください。また、清掃後の注油などは不要です。注油をすると油漏れのおそれがあります。

■ 樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤を使用ください。

■ クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。取除かないと、接着力が弱まり、衝撃を受けた際に転倒事故の原因となります。

<汚れがひどいとき>

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

■ 枕の中材

洗う場合は、ぬるま湯で手洗いし、陰干しで乾燥させてください。

12. 仕様

12.1 各部の寸法

記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

(単位：cm)

品名・名称	KPFK-12
座幅	42
前座高	40
フットサポート ・シート間距離	32~
後座高	37
シート奥行	37.5
バックサポート高	85
アームサポート高	19・21・23・25・27・29
全高	120
折りたたみ時	77
全幅	56.5
折りたたみ時	35
全長	98
折りたたみ時	72
重量 (kg)	21.5

12.仕様

12.2 各部の仕様

品名・名称	KPFK-12
フレーム	リクライニング式フレーム 平面式クロス
折りたたみ方式	背折れ式左右折りたたみ
フレームカラー	ブラック (焼付塗装)
車輪 種類	12インチ PU ドラム式
タイヤ	12インチ PU タイヤ
キャスタ	6インチ ニューソフト黒 キャスタナット固定式
キャスタ輪	6インチ ニューソフト黒 キャスタ車輪
キャスタフォーク (ヨーク)	6インチ キャスタナット固定式
バックサポート	適合調整シート 背クッション (No.102) 2cm 厚
ヘッドサポート	すきまレスピロー
シート	調整無シート 座クッション (No.102) 7cm 厚
アームサポート	跳ね上げ式
肘当て	K幅広パッド
フット・レッグサポート	エレベーター式
フットサポート	V
フットプレート	v
レッグサポート	ふくらはぎパッド式
駐車用ブレーキ	足踏み式駐車用ブレーキ
制動ブレーキ	ドラム式
ハンドグリップ	ネジ止め式
リクライニング機構 (ガススプリング)	高圧ガス噴入式/反発力25kgf ストローク70mm
SG マーク	なし
JIS マーク	なし

注 記

- この車いすの車輪のハブ軸は 1/2 -20UNF のねじを使用しています。
また、車体の一部には、十字穴付きタッピングネジを使用しています。

13.保証について

13. 製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車種	
製造月	年 月

14.保管する

車いすは、お手入れ後、屋内で直射日光を避け保管してください。
また、保管の際は必ず車いすを立てた状態で保管してください。
横倒しの状態で保管すると車軸やフレームに破損が生じる恐れがあります。

■長期保管について

半年以上未使用の状態では保管すると、チューブ・虫ゴム・タイヤなどのゴム製品が劣化しているおそれがあります。日常点検を実施して、必要があれば部品を交換してから使用してください。

長期間駐車用ブレーキをかけたまま放置した場合、ブレーキによるタイヤの凹みが発生するおそれがあります。一度変形したタイヤは、回復困難であるため、保管時は駐車用ブレーキをかけずタイヤ止めなどをご使用ください。

15.故障かな？と思ったら

車いすを使用されていて“おかしいな”と思ったら下表をご確認ください。
表以外の異常が発生した場合はそれ以上使用せず、取扱店にご相談ください。
車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。

症状	確認事項	対応
駐車用ブレーキが利かない	取付部が緩んでいませんか	取扱店に相談してください
介助ブレーキが利かない	ブレーキワイヤに切れ、ほつれはありますか	取扱店に相談してください
	ブレーキワイヤがフレームなどに引っ掛かっていませんか	引っ掛かりを取り除いてください
	車輪もしくはキャストが摩耗していませんか	取扱店に相談してください
	フレームが変形していませんか	取扱店に相談してください
フットプレートが自重で落下する	ネジが緩んでいませんか	取扱店に相談してください
アームサポートがロックされない	跳ね上げ受け樹脂にゴミやほこりがたまっていませんか？	ゴミ類を除去してください

16. 連絡先

■本社	〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■東京サービスセンター	〒110-0013 東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■名古屋サービスセンター	〒487-0027 愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■本店サービスセンター	〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■福岡サービスセンター	〒819-0055 福岡県福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722

注 記

- 修理・お手入れ・お取扱いなど、本書を読んでもわからないときは、製品の使用を中止し、お買い上げいただいた取扱店へお問い合わせください。
 - 転居や贈答品などでお困りの場合は、製品名・品番をご確認の上、上記連絡先へご相談ください。
 - 本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に一部予告なく変更することがあります。
-

